

あかいことりが

■ 楽曲データ

歌詞：三橋あきら 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M1768

■ 創作の経緯

創作の経緯等は不明。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第2巻収録

底資料：『仏教讃歌集 幼児編』 フレーベル館 1956年

比較資料1：『こどもの歌おかあさんの歌』 すずき出版 1967年

比較資料2：『佛教讃歌 こどものうた』 本願寺出版協会 1973年

校訂の詳細：特になし

■ 解説

色とりどりの葉っぱや木の実、野鳥の鳴く甲高い声、澄んだ空気の白い——秋の自然は、子どもたちの五感を刺激するものであふれています。《あかいことりが》は、秋晴れの気持ちのよい一日に、戸外で歌いたい仏教讃歌です。野道を連れ立って歩き、心地よい風を肌を感じながらお腹の底から声を出すと、歌ってなんて楽しいのだろうと思われることでしょう。小さな生き物の鳴き声に合わせて、にぎやかな合唱のひとつになること、うけあいです。

◆ 作詞・作曲者について

作詞の三橋あきは、作曲家・本多鉄磨（1905～1966、本名・慈祐）の作詞時のペンネームです。質・量とも充分でなかった幼児向け讃歌を数多く創作し、この分野に新しい地平を開きました。仏教思想を根底にした本多の音楽教育は、一つのモデルとなり、現在まで高い評価を得ています。

作曲は、平井康三郎（1910～2002）です。管弦楽曲から歌曲までさまざまなジャンルを手がけた、昭和を代表する作曲家の一人です。子ども向けには、童謡《とんぼのめがね》など親しみある作品を書きました。

◆歌詞について

赤い小鳥が赤い葉っぱを、黄色い小鳥が黄色い葉っぱを持ってくるという単純明快な構図が、言葉から浮かび上がる色彩感覚としても、作者が子どもに発したメッセージとしても、強い印象を与えています。子どもの心にまっすぐ入っていく、そんな詩だといえるでしょう。

わずか8小節の小さな歌ですが、きちんと起承転結の流れがあり、4番まで歌ってお話がまとまるように作られていますから、鳥になったり、子リスになったり、お地蔵さまの気持ちになったりしながら、最後まで省略せずに歌いたいものです。

森の動物たちは、自分の一番よいと思うものをお地蔵さまに持っていきました。さあ、皆さんなら何をお地蔵さまにお供えますか？

◆歌い方のヒント

軽快なテンポで、2拍子をよく感じながら歌いましょう。文末の「あげました」で、歯切れよく次の歌詞へと切り替わりますので、1番ごとに歌のバトンを渡すようにして、お隣のお友達に歌い継いでいくのも楽しいと思います。ピアノ伴奏は、リズムよく弾いて、明るくうきうきした気分を盛り上げてください。

◆楽譜・音源について

解説執筆：石川紀久子（元・本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所] 委託研究員）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 82（保育連盟機関誌『月刊保育資料 まことの保育』第686号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.